



東京深川土屋友八が短気無法妻と悴の赤助を時おりの手鑑抄柳

無理非道をも今年由の赤助が悴もせぬ
正直篤孝なれどいじが悪う

堪忍して下さのと申のい迄

外の人々感心しとて商賈

み身を入るをも譽れがまれ

ハ苦みせびておの挨拶を

ソも取損ひ母さる迄も吃

らしむはとつはく日

の稼ゆも六才位つは事

ありて浅州須賀丁お出店を出きように成るをどの親もち

我子を勧め赤助の真似をせといさう様ふ評判息子

やどて賞典も申請るやふ致度ハ実お世上ふ稀者と

まゆく尽に孝行の去年と今年の報知んぞ

六百九十九号お奉りく再賞せり

大糸虫口おつ成 早九号



川作夜夜

馬士受板
糸口お存
九一

